

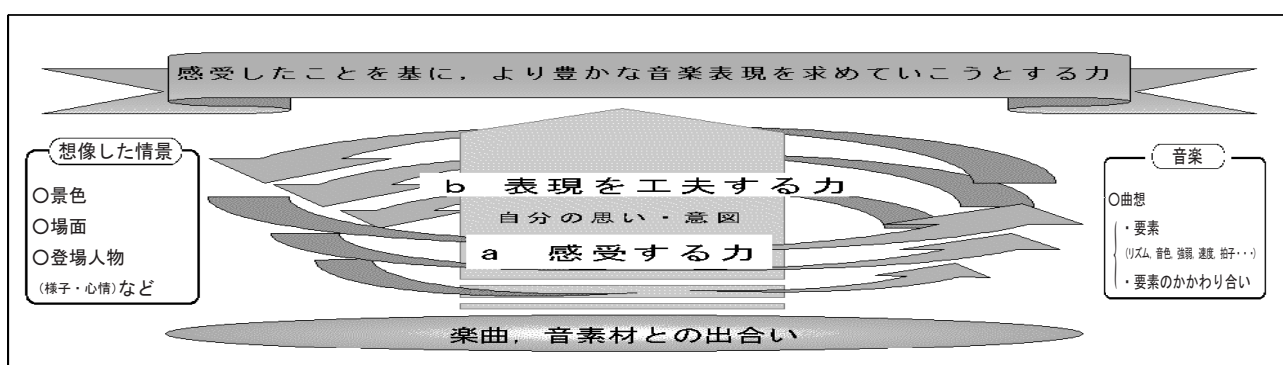
# 音 楽 科

## 1 育成したい「思考力」

- a 感受する力：音楽を形づくっている要素や、その関わり合いから生まれる曲想を基に、音楽の表す情景を想像する力
- b 表現を工夫する力：音楽から想像した情景と結び付けながら、音楽を形づくっている要素や、その関わり合い方を、自分の思いや意図をもって創意工夫する力

小学校学習指導要領において、表現及び鑑賞の活動の支えとなる指導内容が〔共通事項〕として示されている。そこでは、音楽のよさや面白さ、美しさを感じ取る際に聴き取るべき音楽の要素が明確に示されている。

本校音楽科では、その〔共通事項〕に示された音楽の要素を基に感受したり、表現を工夫したりすることを重視し、そこで必要とされる力を上記の「思考力」としてまとめた。



### a 感受する力

音楽は、リズムや音色、強弱等のさまざまな要素により特徴付けられている。そしてこれらの要素の関わり合い方によって独自の構造をもち、それが楽曲に固有の曲想を生み出す。

これら楽曲の独自性を基に、そこから情景を想像する力が「感受する力」である。音楽的な刺激を受け取るという受動的な面にとどまらず、その刺激に対して自分の心象を形成するという能動的な面も含めて捉えている。

また、実際の学習においては、『タッカ』のリズムが弾んでいて、踊っているような曲だなあ。」と音楽を特徴付けている要素から情景を想像することもあれば、逆に「お祭りのような曲だ。」と最初に情景が浮かび、続いてその根拠となる要素を聴き取っていくこともある。感受する力は、このように音楽の要素と情景の双方を行き来しながら高められていくのである。

以下に「感受する力」の実践例を紹介する。

第4学年「拍子の違いを感じ取ろう -『エーデルワイス』『トルコ行進曲』『ラバースコンチェルト』『メヌエット』-」

【本題材で育成したい「思考力」】

拍子と音楽を形づくっているその他の要素との関わり合いから生まれる曲想を基に、音楽の表す情景を豊かに想像する力

音楽鑑賞をする際には、強弱、速度、音色、高さ等、音楽を特徴付けている要素に着目して旋律の違いを聴き分けることが重要である。本実践では、拍子による感じの違いを捉えた後、『メヌエット』の鑑賞において、長調と短調の二つの雰囲気の違い『メヌエット』を聴き比べた。そうすることで、演奏している楽器の音色や曲の速度、明るい・暗いといった調による感じの

違い等、拍子以外の要素に気付いていった。そして、拍子と気付いた要素を基に、再度曲をじっくりと聴き味わうことで思い浮かぶ情景を膨らませ、「1曲目はうきうきした様子で軽くステップを踏みながらターンして、にこにこ笑顔で踊っているみたいだよ。」や「2曲目はちょっと薄暗いところで、悲しそうな表情の人がゆっくり歩くように踊っている感じがするな。」というふうに情景をより豊かに思い浮かべていった。

このように、音楽を特徴付けている拍子と、音色、速度、調といったその他の要素とを結び付けて情景を豊かに想像する力が「感受する力」である。

| ① 音色 | 拍子                          | ② 音色 | 拍子                  |
|------|-----------------------------|------|---------------------|
| ピアノ  | はつたて 元気<br>にこにこ 楽しい<br>つれづれ | ピアノ  | うきうき 楽しい<br>さくさく 元気 |
| のどかな | ゆめが 幸せ<br>ゆめが 幸せ            | のどかな | ゆめが 幸せ<br>ゆめが 幸せ    |
| 明るい  | みんな 笑顔<br>みんな 笑顔            | 明るい  | みんな 笑顔<br>みんな 笑顔    |
|      | 広い スペース                     |      | 広い スペース             |

【要素を基に情景を想像する】

## **b 表現を工夫する力**

既存の楽曲の演奏を工夫する際には、自分の思いや意図を明確にもつことが求められている。そして、その思いや意図に合った表現をするために、音楽を形づくっている要素や、その関わり合い方を創意工夫するのである。

具体的には、例えば「速度の変化」のように要素自体を工夫することもあれば、「旋律の呼応」のように単一要素の関わり合い方の工夫、さらには、「旋律とそれを演奏する楽器」のように別の要素の関わり合い方の工夫もある。

なお、この「表現を工夫する力」は、上で述べた「感受する力」に支えられていることは言うまでもない。情景を想像することで、「このような音楽にしたい」という思いが一層強まるからである。また、音楽を形づくっている要素が、楽曲にどのように働きかけるかを感じ、理解していなければ、要素を選んだり組み合わせたりすることもできないからである。

以下に「表現を工夫する力」の実践例を紹介する。

### 第2学年「様子を思い浮かべて歌おう - 『こぎつね』 -

#### 【本題材で育成したい「思考力」】

『こぎつね』の歌詞や曲想からその情景を想像し、歌う時の反復における強弱や速度の変化を思いや意図をもって工夫する力

本実践では、『こぎつね』の歌詞や曲想から情景を想像し、強弱や速度を変化させて歌い方の工夫へとつなげた。子どもたちは、歌詞を基に自分の思い描いた山の中の情景をより豊かに表すために、「山の中 山の中」と反復する部分に着目し、学習問題を設定した。次に、自分たちの歌った『山びこごっこ』や『かくれんぼ』を聴いて、二つに分かれたり、強弱や速度を変化させたりして歌うことで情景を表せたことを想起し、自分の思い描いた「山の中」になるよう、歌い方をさまざまに工夫していった。その後、自分や友達の工夫が、思い描いている情景を表せているかどうか、描いた絵を見せながらみんなで歌って確かめ合う時間を設定した。「二つの山があって、仲間がきれいな声で歌っている様子です。1回目は一人が小さい声でゆっくり歌って、2回目はみんなが大きな声で速く歌います。」等と、自分の思い浮かべた情景に合うように歌い方を工夫していった。

このように、強弱や速度等、音楽を形づくっている要素の関わり合い方をさまざまに変えながら、情景にふさわしい表現を創意工夫することが「表現を工夫する力」である。



【歌って工夫を確かめ合う】